

IX　まとめ

1 早良平野周辺における前方後円墳について

(1) 早良平野における首長墓の変遷

羽根戸南古墳群において3基の前方後円墳を調査した。前期古墳2基と後期古墳1基である。室見川流域では全長75mの拝塚古墳（集成編年4期）、帆立貝式古墳である樋渡古墳（集成編年5期）の2基があるのみであった。その前後に位置する前方後円墳が発見されたことになる。また、早良平野においては、4世紀代の前期の前方後円墳は確認されておらず、今回調査したG-2・3号墳が初見である。

早良平野は1970年代まで弥生時代の顯著な首長墓、古墳時代の前方後円墳が確認されていなかった。弥生時代には東の奴国（春日市周辺）、西の伊都国（前原市周辺）に挟まれ、古墳時代になると両地域とも、いち早く定型化した前方後円墳が出現している。そのため、早良平野は両国に挟まれた緩衝地域という位置づけであった。

森貞次郎氏は、「早良平野の自然条件が十分で無いこと・交通、産業資源上の拠点たりえないこと」に起因すると指摘されている。しかし1970年代後半、弥生時代の早良王墓の発見や前方後円墳の発見により早良平野の位置づけには見直しが迫られている。

周辺地域、とくに室見川流域の前方後円墳や首長層クラスの墳墓を概観し、羽根戸南古墳群の前方後円墳の位置づけを行う。早良平野の中で河川の流域ごとに3地域（室見川流域、七隈川流域、樋井川流域）に区分し、その中で首長もしくは首長クラスの古墳の変遷をみた。それが図231である。七隈川流域、樋井川流域については吉留秀敏氏がまとめているので参考にした（吉留編1997）。

室見川流域では現段階で羽根戸南古墳群のG-2号墳、G-3号墳、F-2号墳の3基と拝塚古墳、樋渡古墳の5基の前方後円墳が確認されている。各古墳を簡単にまとめる。

G-2号墳は、室見川左岸の丘陵尾根上に位置する。全長26mを測り、後円部、前方部とともに3段築成である。全面に葺石を貼ったと考えられる。第1主体部は箱式石棺であり、位至三公鏡、鉄製刀子を副葬品にもつ。

G-3号墳は、G-2号墳の北隣に位置する。全長19.6mを測り、後円部、前方部とともに2段築成である。全面に葺石を貼ったと考えられる。第1主体部は割竹形木棺であり、内行花文鏡の破鏡、曲げた鉄剣、鉄矛を副葬品にもつ。

拝塚古墳は、室見川右岸の沖積微高地に位置し、全長75mを測る。幅7～9mの周濠を巡らし、葺石・埴輪をもつ。主体部は削平されていたが、割石の出土から初期横穴式石室が想定されている。

樋渡古墳は、室見川左岸の段丘上にあり、全長38mの帆立貝式前方後円墳である。前方部1段、後円部2段で、葺石・埴輪をもつ。周濠は不整円形を呈する。拝塚古墳同様主体部は失われているが、初期横穴式石室を想定している。

F-2号墳は、丘陵裾に位置し、全長16.3mを測る。帆立貝形古墳で、前方部は「剣菱型」を呈する。主体部は单室両袖型の横穴式石室である。

次にこの5基の系譜を追ってみると、まずG-2・3号墳が室見川左岸の丘陵尾根上に、時期差がほとんどない状況で、築造されたと考えられる。その後、平野部に全長75mの拝塚古墳が構築される。規模的にも早良平野全体を総括する首長の墓として、この古墳の出現をみることができよう。これに後続するものとして樋渡古墳が存在するが、後期（9期前半）F-2号墳出現に至るまで、しばらく

の空白期間が存在する。F-2号墳はG-2・3号墳とは異なる尾根上に位置し、群集墳中の古墳の一つとして存在することが特徴といえよう。

その後前方後円墳という墳形は採っていないが、7世紀前後に夫婦塚古墳（乙石1・2号墳）という径30mの規模の巨石、巨石室を持った円墳が出現する。その規模から首長墓としてとらえることができよう。

以上、首長層の系譜を追ってみた。早良平野において、前方後円墳という墳形を採用していないが、4世紀代の首長層の墓と考えられる墳墓も存在する。室見川左岸の五島山古墳と右岸の藤崎方形周溝墓である。

五島山古墳は丘陵頂部に位置し、小規模な盛土をもつ円墳である。主体部である箱式石棺から斜縁二神二獸鏡、特異な五角形銅鏡、鉄劍、玉類が出土している。

藤崎遺跡は、海岸砂丘上に位置し、外来系の墓性である方形周溝墓が群集している。そのうち5基から鏡が出土している。主体部は箱式石棺・組合せ式木棺である。

藤崎遺跡は4世紀前半から中葉と継続して造営されているが、五島山古墳は年代決定可能な出土遺物がなく断定できない。いずれもその副葬品から、それぞれの地域を代表する首長墓であった可能性は大きい。方形周溝墓は西区飯盛谷B遺跡、入部遺跡でも確認されている。飯盛谷B遺跡は4世紀代のもので、方格規矩鏡片・滑石製釧が出土している。

首長墓が平野北部の海岸地帯に造られていることは、その首長が海上交通に長けた人物であったことを示すのであろう。方形周溝墓は通例、副葬品に乏しいが、藤崎遺跡の方形周溝墓群は鏡を有するなど特異な様相をもつ。方形周溝墓の形成時期が短期間なことからも、かなり特殊な集団の墓地ではないかと思われる。藤崎遺跡の方形周溝墓群は、その立地からみて海路を通じて交易を行い、またヤマト王権とも関係の深かった特殊な集団の墓地であったのだろう。このように海上交通に依存した力を窺わせる地域首長と、背景に農業生産力をもった地域首長という2者の存在が考えられる。首長墳の分布を見る限り、それはごく小さな地域ごとに分けられていたのであろう。

	室見川流域	七隈川流域	樋井川流域
1 期			
2 期	1 G-2/26 2 G-3/19.6		
3 期			9 京ノ限古墳 /40
4 期	3 拝塚 /75	6 熊添古墳 /33	
5 期	4 樋渡 /38		
6 期		7 クエゾウ1号墳 /22	
7 期		8 梅林古墳 /27	
8 期	5 F-2/16.3		10 神松寺御館古墳 /20
9 期			11 桧原2号墳 /40
10 期			12 桧原 A 2号墳 /30-40

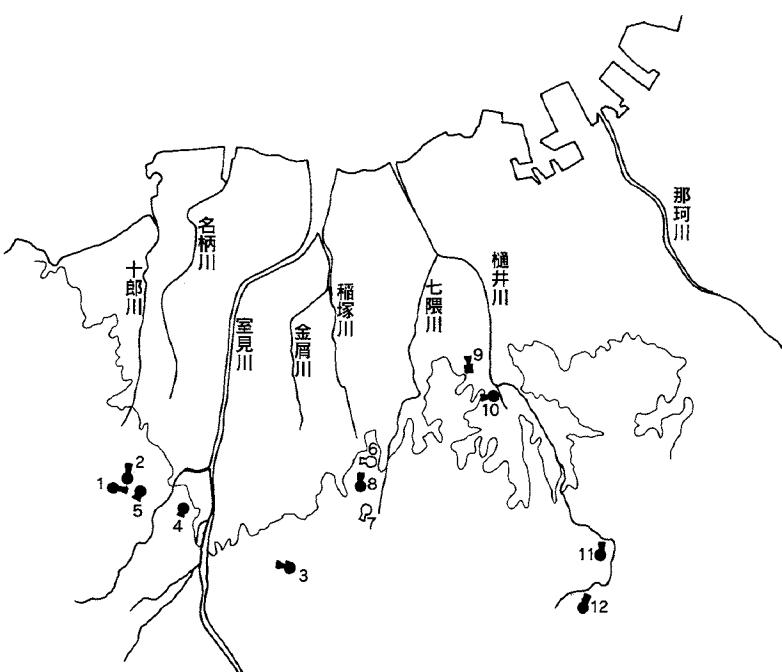


図231 早良平野流域の前方後円墳系譜図

図232 早良平野の前方後円墳分布図 (1/75,000)

ここまで、室見川流域における古墳の変遷をみてきた。以下にまとめてみる。

室見川流域において、4世紀代に藤崎遺跡、五島山古墳で首長墓が築かれ、やや後出して前方後円形という墳形をもったG-2・3号墳が築造される。早良平野全体を総括する首長の墓として拝塚古墳が出現したあとは、帆立貝形を呈する樋渡古墳が築かれる。その後中断期間があり、後期後葉段階になってF-2号墳、円墳ではあるが地方の大首長墓を窺わせる夫婦塚古墳が築造されている。

前期：前方後円墳が優位としつつも大小各種の古墳が相対的な差異を示しつつ築かれた段階

羽根戸南古墳群G-2・3号墳、藤崎遺跡の方形周溝墓、五島山古墳

中期：古墳の秩序が最も整う段階で、帆立貝式古墳や円墳や方墳が卓越する地域がある。

拝塚古墳、樋渡古墳

後期：首長層の前方後円墳は小型化、もしくは円墳化し、群集墳（新式群集墳）が急速に増大する。

羽根戸南古墳群F-2号墳、夫婦塚古墳（乙石1・2号墳）

以上の古墳の変遷は全国的な古墳の変遷とも合致しているといえよう。

（2）羽根戸南古墳群G-2・3号墳の位置づけ

G-2号墳は3段築成で墳長26m、G-3号墳は2段築成で墳長19.6mと小型であり、墳丘には葺石を有し、石蓋土壙墓を主体部にもつ方墳、石棺墓や壺棺墓等の従属的な墳墓を伴っている。このような特徴をもつ古墳は、糸島周辺で多くみられる。

「伊都国は古墳時代を通して50基の前方後円墳が確認され、そのうち4世紀末までに19基が築造されている。端山古墳、御道具山古墳、徳正寺山古墳など全長50mを越える比較的大型のものが、三雲・井原、志登、石崎各遺跡の拠点的集落の周辺に立地する。全長50mを越えない小型のものが小平野・河川水系の首長墓として築造されている。大型の前方後円墳が伊都の首長権を継承していったと見られる。小型の前方後円墳はこの大型のものとは一線を画する下位有力者層の墳墓であることが窺える。」以上、岡部裕俊氏（岡部編1995）がまとめている。また氏は、これら小型前方後円墳の特徴として、墳丘には葺石を有し、古墳周辺に石棺墓や壺棺墓等の従属的な墳墓を伴い、埋葬施設の多くが箱式石棺を採用していることを確認している。これら古墳に後続する古墳が帆立貝式古墳のみであり、前方後円墳が認められないのも特徴である。

このような特徴をもつ小型前方後円墳を一覧表にまとめ、地図におとしてみた。前期古墳は早良平野・糸島周辺で約24基存在するが、そのうち小型の前方後円墳は13基を数え、両地域において小型の前方後円墳は存在している。また、帆立貝式古墳も糸島郡二丈町松末立野古墳、前原市大字曾根銭瓶塚古墳があり、室見川流域でも福岡市西区大字吉武樋渡古墳が存在する。以上のように、多くの点で早良平野と糸島周辺は類似した様相が窺える。

1～3期の糸島・福岡地域には小型の前方後円墳の複数の首長墓が並列し、その中に突出する大型墳が墳丘規模の上で明確な格差を表現している。こうした首長墓の関係から古墳相互の序列化、階層化の進展をみることができる。4期になると糸島では、一貴山川流域と長野川流域の間に、筑前最大規模の一貴山銚子塚が登場する。それにやや遅れて、開1号古墳・泊大塚古墳・室見川流域では拝塚古墳が築造される。福岡平野でも春日・那珂川小グループが安徳大塚から卯内尺・老司へと大型化し、早良・粕屋を含めた盟主的地位が確立された時期であろう。その後室見川流域では、帆立貝式古墳である樋渡古墳が造営されるが、後続する古墳はみられず、糸島・福岡でも首長墓の中斷が見られる。

羽根戸南古墳群の前方後円墳が位置する室見川流域は周辺の糸島地区と類似した変遷が追える。東側の樋井川流域・福岡平野と比較しても大きく逸脱するものではない。室見川流域に沖積地は広がるが、ここを拠点にして、大型の前方後円墳を築くほどの生産力はもつことはできなかったと考えるこ

ともできよう。現段階では羽根戸南古墳群の位置づけとしては、小平野・河川水系の首長墓として築造され、全長50mを越える大型のものとは一線を画する下位有力者層の墳墓であるといえる。

中期・後期段階になると陶質土器が顕著に認められ、また群集墳中に多くの鉄滓が供献されるなど特色ある動きを示すようになる。このあり方からは大陸との交流も窺うことができるが、前期段階では早良平野で、このような痕跡を示す資料は確認されていない。

参考文献

- 吉留秀敏編 1997『桧原遺跡』福岡市教育委員会
 郡出比呂志・田中琢編 1998『古代史の論点4』
 近藤義郎編 1992『前方後円墳集成』 2000『前方後円墳集成 補遺編』
 岡部裕俊編 1995『荻浦一古墳編』前原市教育委員会

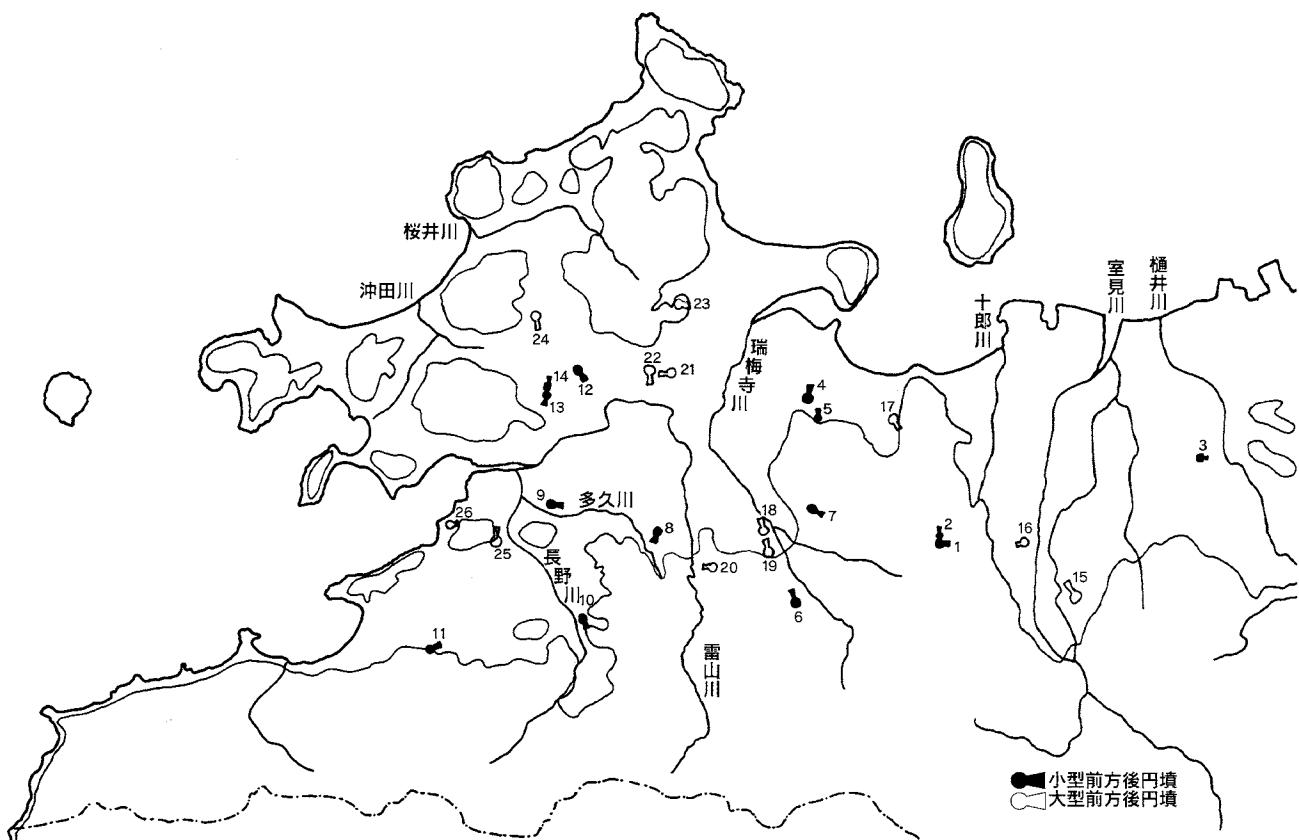


図233 早良・糸島地区前期前方後円墳分布図 (1/200,000)

		所在地	墳長	葺石	内部主体	他主体部	主な出土遺物	備考
1	羽根戸南古墳群G-2	福岡市西区大字羽根戸	26	有り	箱式石棺	箱式石棺		
2	羽根戸南古墳群G-3	福岡市西区大字羽根戸	19.6	有り	割竹形木棺	壺棺墓	破鏡出土	
3	京の隈古墳	福岡市城南区田島	40	有り	割竹形木棺		折り曲銀先	前方後方墳
4	山ノ鼻1号墳	福岡市西区大字徳永	37.2	有り	堅穴式石槨の可能性			
5	若八幡宮古墳	福岡市西区大字徳永	47	有り	舟形木棺の可能性		三角縁二神二獣鏡	
6	井原1号墳	前原市大字井原	42	有り	箱式石棺			
7	高祖東谷1号墳	前原市高祖	36	有り	組合式木棺	箱式石棺		
8	有田1号墳	前原市大字有田	30	有り	箱式石棺			
9	立石1号墳	前原市大字萩浦	30		割竹形木棺の可能性	壺棺墓	方格T字鏡	
10	本林崎古墳	前原市大字本字林崎	25			箱式石棺	破鏡出土	
11	徳正寺山古墳	糸島郡二丈町大字上深江	52	有り		壺棺墓		
12	権現塚古墳	糸島郡志摩町大字津和崎	36		箱式石棺の可能性		画像鏡	
13	稻葉1号墳	糸島郡志摩町大字師吉	40?	有り	堅穴式石槨			
14	稻葉2号墳	糸島郡志摩町大字師吉			箱式石棺			前方後方墳

表：早良・糸島地方小型前方後円墳一覧表

15. 拝塚古墳 16. 横渡古墳 17. 鋤崎古墳 18. 端山古墳 19. 築山古墳 20. 錢瓶塚古墳 21. 泊大塚古墳
 22. 御道具山古墳 23. 元岡池ノ浦古墳 24. 開1号 25. 一貴銚子山古墳 26. 立野古墳